

SEC 主任会計士室と IFRS のイニシアティブ

杉 本 徳 栄

I はじめに

国際財務報告基準（IFRS）を葬り去らなければならない——しごく単純明快かつ過激な発言であるが、発言内容もさることながら、誰による発言かによっては物議を醸す。

この発言者は、現在、ピングラム・コンサルティング（Bingham Consulting LLC）社長で、またピングラム・マカッチェン（Bingham McCutchen LLP）パートナーのクリストファー・コックス（Christopher Cox）である。そう、コックスこそ、アメリカの資本市場に参入する外国民間発行体（Foreign Private Issuers）に連結財務諸表の準拠基準として IFRS の使用を容認し、その際の調整表作成・開示要件を撤廃する規制措置（SEC 2008a）を設けるとともに、アメリカ企業にも IFRS の使用を容認する方向でのコンセプト・リリース（概念通牒）（SEC 2007f）やロードマップ（SEC 2008b）を公表し、アメリカでの IFRS 適用の検討を進めた、当時の証券取引委員会（SEC）委員長（共和党系）である。

アメリカの会計規制を展開する SEC の委員長による在任時と在任後の真逆の発言は、これからの規制措置のあり方にも影響を及ぼしうる。だからこそ、発言の真意を探り、理解する必要がある。

コックスは、この発言の前後に次のように述べている（Cox 2014）。

「しかし、今日、グローバルな取引や投資は増加を続けており、あらゆることをうまくやり遂げる必要のある会計基準が追いついていないというリスクが現実にある。だからこそ、私の SEC 委員長在任時には、さまざまな国の会社の財務情報を、比較可能で、しかも信頼できるものとするために必要なあらゆることを、アメリカが行なうように努めてきた。

しかし、それは数年前の状況である。それ以降、状況が大きく変わった。本日、私は、IFRS を称賛するためではなく、葬り去るためにいる。

実際には、意味のある進展なしに、あまりにも時間が経ってしまった。時機は過ぎ去ったと言わざるを得ない。アメリカでの本格的な IFRS アドプションは、かつては可能だったかもしれないが、もはやいまはそうではない。これは予後（経過予想）ではない。事実そのものを述べただけだ。

…（中略）…

そう、それ〔IFRS ロードマップの公表：引用者〕から7年近く経ってしまった。言うまでもなく、IFRS に対するアメリカの熱気は潮が引いてしまった。

SEC はいまでも、IFRS が優先事項であると言っているが、それには理由がある。結局のところ、アメリカ市場における400社超の外国民間発行体は言うまでもなく、アメリカ以外のほとんどの国が IFRS を使っているのである。しかし、IFRS 導入に向けてアメリカを動かすことは、明らかに優先事項となっていない。

これは、SEC が優先事項として実行していないという意味ではない。むしろ、公開会社や投資家が IFRS を欲していると明言していないという意味である。」

つまり、アメリカの IFRS 導入について、コックスは、SEC 委員長在任中は絶好のタイミングであったことを正当化しつつ、いまやその好機を逃してしまったという意味で、IFRS を葬り去らなければならないと発言したのである。

アメリカの IFRS 導入については、2010年の「コンバージェンスとグローバルな会計基準を支持する SEC 声明」（SEC 2010）とその付録文書によって調査・分析が開始された、SEC スタッフによる「アメリカの発行体の財務報告制度への国際財務報告基準の組み込みに関する検討のための作業計画

(ワークプラン)」の最終スタッフ報告書(2012年7月13日)が公表されて以降、SECによる最終決定の公式見解はみられない。一連の「作業計画(ワークプラン)」と最終スタッフ報告書は、IFRSへの移行がアメリカの投資家の最善の利益になるかという根本的な問題の回答を示しておらず、SECが、アメリカの発行体の財務報告制度へのIFRSの組込みに関する意思決定を行なう前に、さらにこの「問題の追加的な分析と検討が……必要となる」(SEC Office of the Chief Accountant 2012, Introductory Note)ことを明言してきた。

ここで、本稿では、SEC コミッショナーや SEC スタッフが公式の場で行なうスピーチなどは限られるが、その中心的役割を果たす SEC 主任会計士室(主任会計官室)(Office of the Chief Accountant)のスタッフによる取り組みを描写し、その特徴や今後の方向性などを探ってみたい。

II 「SEC と財務報告協会年次大会」と「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」

冒頭のコックスの発言は、2014年に開催された第33回「SEC と財務報告協会年次大会」(SEC and Financial Reporting Institute Conference)の基調演説でのものである。コックスは、すでに2009年1月20日に SEC 委員長を辞しているが、その後、SEC 関係者が表明した規制措置に関わる見解などを辿ってみると、それを表明する場ないし機会にも特徴がある。

「SEC スピークス」(SEC Speaks)の会議を通じて、SEC は、委員長を含むコミッショナーや各部局長の SEC スタッフが過去1年間の活動や取り組みを概括するとともに、新年度の優先事項と取り組み方針などを表明する機会を設けている。

これ以外にも、定期的に行われる会議(年次大会)に SEC 関係者の出席が求められ、会計や財務報告に関わる規制措置などについて見解を表明する機会もある。IFRS について言えば、「SEC と財務報告協会年次大会」は、「SEC および公開会社会計監視委員会(PCAOB)の最近の動向に関するア

アメリカ公認会計士協会（AICPA）全国会議」(AICPA National Conference on Current SEC and PCAOB Developments) とともに、公式見解を表明する重要な舞台装置である。

この2つの会議は、SEC にとっても都合がよいところがある。2つの会議は、それぞれ教育機関である南カリフォルニア大学（University of Southern California）と自主規制機関である AICPA が主催している。開催場所は、アメリカの西部（カリフォルニア州ロサンゼルス郡パサデナ（Pasadena））と東部（ワシントン D.C.（Washington D.C.））であり、また開催時期は、毎年5月ないし6月と12月のため、半年ごとに見解表明ができる。

1. 「SEC と財務報告協会年次大会」

「SEC と財務報告協会」は、学界、SEC と財務会計基準審議会（FASB）の政策設定者、企業の重役などの交流を促進することを目的として、1982年に南カリフォルニア大学のレーベンサール（Leventhal School of Accounting）が創設した会議体である。この協会の諮問委員会に、1987年1月から1997年6月まで FASB 議長であったデニス・ベレスフォード（Dennis R. Beresford）、元 SEC 委員長のコックス、元 SEC 企業財務局長のジョン・ホワイト（John W. White）などが委員として名を連ねている。

ベレスフォードは、2007年7月より、SEC の財務報告改善諮問委員会（CIFiR）委員を務め、ホワイトそしてコンラッド・ヒューイト（Conrad Hewitt）SEC 主任会計士（主任会計官）（Chief Accountant）をはじめとした SEC スタッフとともに、「アメリカ証券取引委員会宛の財務報告の改善に関する諮問委員会の最終報告書」（SEC Advisory Committee on Improvements to Financial Reporting 2008）の取りまとめに従事した。この最終報告書は、(1) SEC 提出書類の情報の有用性の向上、(2) 会計基準設定プロセスの改善、(3) 新会計基準の実質的なデザインの向上、(4) 権威ある解釈指針の策定、(5) 財務諸表の修正再表示と会計上の判断に関するガイダンスの明確化の5つの分野で、25の勧告を提示したが、この最終報告書の提出先はコックス

SEC 委員長であった。

つまり、「SEC と財務報告協会」の諮問委員会の一員となった彼らこそ、当時の SEC と財務報告の検討などを展開した中心人物である。

2. 「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」

AICPA が主催する主たる会議（年次大会）には、AICPA/PDI 石油ガス業界全国会議（AICPA/PDI National Oil and Gas Conference）、AICPA 政府会計・監査アップデート会議（AICPA Governmental Accounting and Auditing Update Conference）、AICPA 銀行貯蓄機関全国会議（AICPA National Conference on Banks and Savings Institutions）、AICPA 自動車販売全国会議（AICPA National Auto Dealership Conference）、AICPA 税制全国会議（AICPA National Tax Conference）などがある。「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」も、これら AICPA 主催の主要な会議（年次大会）の 1 つである。

「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」は、会計、監査および財務報告の最近の動向やイニシアティブについて議論するために、SEC、PCAOB、FASB、国際会計基準審議会（IASB）、監査品質センター（CAQ）、AICPA などからスピーカーが登壇することを呼び物としている。

3. 「SEC と財務報告協会年次大会」と「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」における SEC 関係者の報告

SEC は、IFRS を使用する外国民間発行体に対する調整表作成・開示要件を 2007 年に撤廃した。この調整表作成・開示要件の撤廃を勧告するための、SEC スタッフによるプロセスや条件および関連する諸活動について取りまとめた、いわゆる「SEC スタッフの撤廃勧告ロードマップ」を策定したが、当時の SEC 主任会計士室のドナルド・ニコライセン（Donald T. Nicolaisen）主任会計士である。このロードマップが公表された 2005 年 4 月を起点として、「SEC と財務報告協会年次大会」と「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」における SEC 関係者の報告について

図表1 「SECと財務報告協会年次大会」と「SECおよびPCAOBの最近の動向に関するAICPA全国会議」におけるSEC関係者の報告

年次大会	「SECと財務報告協会年次大会」 SEC関係者の報告		年次大会時の SEC委員長 ウィリアム・ドナルドソン(共)	「SECおよびPCAOBの最近の動向に関するAICPA全国会議」 SEC関係者の報告	
	SECコミッシヨナー	SECスタッフ		SECコミッシヨナー	SECスタッフ
2005年大会	シンシア・グラスマン	ドナルド・ニコライセン スコット・ターブ		ジェフリー・エルハルト	ジェフリー・エルハルト
2006年大会		ジェームズ・クロウカー		カトリッチ・キンズル コンラッド・ヒューイット	カトリッチ・キンズル コンラッド・ヒューイット
2007年大会		コンラッド・ヒューイット	クリストファー・コックス (共)	クリストファー・コックス	クリストファー・コックス
2008年大会				ジェフリー・エルハルト ジェフ・エリス ウエイン・カーネル クレイグ・オリンジヤー	ジェフリー・エルハルト ジェフ・エリス ウエイン・カーネル クレイグ・オリンジヤー
2009年大会				ジェームズ・クロウカー アリソン・パツァイ サガー・テオリア	ジェームズ・クロウカー アリソン・パツァイ サガー・テオリア
2010年大会		ポール・バスウイック	メアリー・シャピロ (独)	メアリー・シャピロ	メアリー・シャピロ
2011年大会		ジェームズ・クロウカー			
2012年大会					
2013年大会	エリーゼ・ウォルター	ポール・バスウイック	メアリー・ジョー・ホワイト (独)	メアリー・ジョー・ホワイト (独)	ジェフリー・エルハルト ポール・バスウイック ジェニファー・ミンクン・ジワール クレイグ・オリンジヤー ジル・テイビス
2014年大会		ポール・バスウイック			
2015年大会		ジェームズ・シュナー			ジェームズ・シュナー ジェフリー・エルハルト

(2015年9月末日現在)

注：(1) SEC委員長は各年次大会開催日現在のものであり、エリーゼ・ウォルターがシャピロとホワイトの間に委員長を務めていた時期がある(2012年12月15日から2013年4月9日)。

(2) SEC委員長のシャピロとホワイトは、いずれも民主党政権時に任命されたが、本人は二大政党に属さないで、(独)と表記している。(共)は共和党系を意味する。

まとめたものが、図表 1 である（AICPA 全国会議は SEC 関係者の報告が多く、IFRS に言及した報告のみを記載している）。

「SEC と財務報告協会年次大会」の第24回年次大会（2005年）でのニコライセンの報告以降、報告者は SEC 主任会計士室の主任会計士、副主任会計士または主任会計士代理である。SEC 主任会計士などに加えて、直近の11年間の年次大会では 2 人の SEC コミッショナー（シンシア・グラスマン（Cynthia A. Glassman）とエリーゼ・ウォルター（Elisse B. Walter））も報告に加わっているが（Glassman 2006; Walter 2013）、この年次大会での報告は、基本的には、SEC 主任会計士室のスタッフの所管事項であることがわかる。

III 「SEC と財務報告協会年次大会」における SEC 関係者の IFRS を巡る見解表明

「SEC と財務報告協会年次大会」の第24回年次大会（2005年）と第25回年次大会（2006年）での SEC コミッショナー（グラスマン）と SEC スタッフ（ニコライセンとスコット・ターブ（Scott A. Taub））の報告は、情報の透明性、財務報告や高品質な報告についての言及はみられたが、IFRS については何も触れていない。第25回年次大会当日（6月8日）、コックス SEC 委員長はニューヨーク金融記者協会（New York Financial Writers Association）で、またロエル・カンポス（Roel C. Campos）SEC コミッショナーは証券監督者国際機構（IOSCO）の第31回年次大会（香港）で、それぞれ講演している（Cox 2006; Campos 2006）。いずれも IFRS についての言及はない。

この「SEC と財務報告協会年次大会」で IFRS について言及するのは、第26回年次大会（2007年）からである。2007年に副主任会計士として SEC に加わったジェームズ・クローカー（James L. Kroeker）は、この年次大会の講演で、SEC による 3 つの主たるイニシアティブ（取り組み）について説明した（Kroeker 2007）。

第 1 に、サーベンス・オクスリー法（SOX）である「上場企業会計改革

および投資家保護法」(Public Company Accounting Reform and Investor Protection Act of 2002)の財務情報開示の強化に関わるもので、第404条「経営者による内部統制の評価」(Management Assessment of Internal Controls)のSECによる解釈指針案および規則案についてである。この解釈指針案および規則案は、SECが2006年12月20日に公表した「財務報告に係る内部統制の報告」(Management's Report on Internal Control over Financial Reporting)(SEC 2006)である。コックス委員長は、2007年4月4日のSEC公開会議で、SECによる経営者のための指針案の最終的な採択の目標期日を、2007年5月末までとしていた(Cox 2007)¹⁾。クローカーの講演は、このプロセスの最終期日に合致するものである。

第2のイニシアティブもSOX法第404条の内部統制に関わるもので、PCAOBによる新たな監査基準案と規則案についてである。SOX法第404条の評価プロセスの有効性(財務諸表の重要な虚偽表示に先立って重大な欠陥を発見すること)を向上させるために、PCAOBは、2006年12月19日に監査基準(AS)第2号「財務諸表監査に関連して実施される財務報告に係る内部統制の監査」(An Audit of Internal Control over Financial Reporting Performed in Conjunction with an Audit of Financial Statements)の改正案を公表した。この改正案のコメント期限は2007年2月26日であったが、SEC主任会計士室も、PCAOBの改正案に関するパブリックコメントと先の公開会社の経営者に対するSECの指針案の分析をSEC(コミッショナー)に提出している(SEC 2007b)²⁾。

- 1) SECによる「財務報告に係る内部統制の報告」の規則案は、2007年6月20日に最終規則化された(SEC 2007d)。また、その解釈指針案も、SECは2007年5月23日に満場一致で承認し、公表された(SEC 2007e)。
- 2) PCAOBは、2007年5月24日の公開会議の結果を踏まえて、6月にPCAOB監査基準第5号「財務諸表監査と統合された財務報告に係る内部統制監査、並びに関連する独立性規則および本基準に一致させるための改訂」(An Audit of Internal Control over Financial Reporting That Is Integrated with an Audit of Financial Statements, and Related Independence Rule and Conforming Amendments)を公表した。同年7月に、SECもこの新監査基準を承認した。PCAOB監査基準第5号は、財務報告に係る内部統制監査の実施に際して、経営者が財務報告に係る内部統制の有効性の年次評価のために用

第3のイニシアティブがIFRSについてであり、とくに、SECが公表した外国民間発行体に対するIFRSの使用容認とIFRSを使用する外国民間発行体に対する調整表作成・開示要件の撤廃に関するリリース（通牒）案についてである。2007年3月6日に、SECスタッフは、IFRSの「ロードマップ」に関する円卓討論（SEC 2007a）を開催しており、これを踏まえて、翌月末に、SECは「IFRSに係る次のステップ」（SEC 2007c）を公表している。この「IFRSに係る次のステップ」に関わる説明にこそ、クローカーの講演の本質がある。

ヒューイト主任会計士による第27回年次大会（2008年）での講演「IFRSとアメリカ企業」（IFRS and U.S. Companies）は、過去2年間のIFRSに関わる規制措置の成果について述べたものである。ヒューイトは、PCAOB監査基準第2号の改正、経営者のための指針の策定、会計・監査基準と財務報告制度の複雑性の軽減の3つ課題でコックス委員長を支援する考えであったが、コックス委員長からの要請は、拡張可能な事業報告言語（XBRL）とIFRSであったという（Hewitt 2008）。この事実から、コックス委員長がIFRSを優先事項としていたことを知ることができる。

ヒューイト主任会計士の講演の主たる内容は、SECおよびSECスタッフによる直近の取り組みであるアメリカ企業に対するIFRSの使用可能性に関する2回の円卓討論（2007年11月）の概要と寄せられたコメント等の説明、およびコックス委員長の指示によるSECスタッフの最新の「ロードマップ」策定の取り組みである。2007年8月に公表したコンセプト・リリースに寄せられたコメントを、ロードマップでのマイルストーンの開発に役立てている。

コックス委員長が指示したとする最新の「ロードマップ」策定の取り組みは、2008年4月18日のアメリカ商工会議所（U.S. Chamber of Commerce）でのコックス委員長の講演によるものである。コックス委員長が、「今年中に、

いるのと同等の、適切で、認知された内部統制の枠組みを使用すること、および内部統制監査と財務諸表監査を統合することなどについて規定したものである。PCAOB監査基準第5号の発効に伴い、PCAOB監査基準第2号は廃止された。

ウェイ・カーネル (Wayne Carnell) とジュリー・エルハルト (Julie Erhardt) が主導する企業財務局と主任会計士室の共同作業の結果、アメリカが自国での IFRS の受入れ措置を講じ続けるために、スタッフが、計画を練った最新の『ロードマップ』と計画の条件となるマイルストーンを委員会に正式に提案するだろう」(Cox 2008a) と述べたものである。

また興味深いことに、ヒューイット主任会計士の講演の前日に、コックス委員長は IOSCO 第33回年次大会 (パリ) で「国際財務報告基準：世界中の投資家のために透明性と比較可能性を約束」(International Financial Reporting Standards: The Promise of Transparency and Comparability for the Benefit of Investors around the Globe) と題する講演 (Cox 2008b) を行なっている。

IV アメリカの発行体の財務報告制度への IFRS の組込みと「第4の選択肢」

1. SEC 主任会計士室のスタッフによる個人的見解の表明

2005年と2006年の「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」におけるエルハルトの講演は、コンバージェンス、ニコライセンの調整表作成・開示要件に係る「SEC スタッフの撤廃勧告ロードマップ」などと、外国民間発行体の IFRS 準拠財務諸表の SEC スタッフによる分析結果からなる (Erhardt 2005; Erhardt 2006; 杉本 2009, 310-313頁参照)。SEC コミッショナーのキャスリーン・ケーシー (Kathleen L. Casey) やウォルターなどの講演 (Casey 2007; Walter 2009) も、基本的に同じ内容のものである。

その後の「SEC と財務報告協年会次大会」と「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」での SEC 関係者の講演は、基本的には、2010年の「SEC 声明」(SEC 2010) とその付録文書によって調査・分析が開始された SEC スタッフによる一連の「作業計画 (ワークプラン)」に関わるものである。こうした IFRS を含む会計や財務報告に関する SEC コミッショナーによる規制措置の原案は、SEC 主任会計士室を中心とした SEC スタッ

フが取りまとめる。その責任者こそ、主任会計士室の主任会計士である。

クローカーは、グローバルな会計基準についての最終 SEC スタッフ報告書を取りまとめ、その提出と同時に、主任会計士の職位だけでなく、SEC をも辞した。その後の主任会計士室の主任会計士は、少しの間不在の時期もあったが、主任会計士代理と副主任会計士を歴任したポール・ベスウィック (Paul A. Beswick) が、2012年12月21日から2014年5月15日まで務め、また2014年10月 (任命は8月26日) からジェームズ・シュナー (シュヌアー) (James Schnurr) がその職に就いている。

ところで、2010年の「SEC 声明」の公表以降、「SEC と財務報告協会年次大会」と「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」での SEC 主任会計士などによる講演は、それまでとは趣を異にすると言ってよい。SEC が取り組む財務報告に関わる規制措置の説明にとどまらず、IFRS の組込みについて、SEC 主任会計士室のスタッフが少し踏み込んだ個人的見解も述べ始めているのである。

たとえば、SEC スタッフの「作業計画 (ワークプラン)」が展開するなかで、とりわけ注目されたのは、ベスウィック副主任会計士が、2010年の「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」の講演 (Beswick 2010) で提唱した「コンドースメント・アプローチ」(Condorsement Approach) である。このアプローチは、本質的にはエンドースメント・アプローチの要素に加えて、移行期間において U.S. GAAP と IFRS の差異の解消に向けてコンバージェンス・アプローチの要素を採り込むものである。

SEC スタッフの「作業計画 (ワークプラン)」に関する最初の進捗報告書 (SEC Office of the Chief Accountant and Division of Corporation Finance 2010) は、各国・各地域の財務報告制度への IFRS の組込み方法を検討し、そのなかで、自国による何らかの組込みプロセスを経て IFRS を利用する方法を、「コンバージェンス・アプローチ」と「エンドースメント・アプローチ」に分類した。ベスウィックによる「コンドースメント・アプローチ」は、この方法論の実態を踏まえたものなのである。

2. シュナー主任会計士による「第4の選択肢」

SEC 主任会計士などが個人的見解を表明するという点では、シュナーも同じである。

1985年からおよそ30年間にわたり監査法人デロイト (Deloitte LLP) のパートナーであったシュナーは、2014年8月26日にホワイト SEC 委員長から主任会計士の主任会計士の指名を受けた。その際、ホワイト委員長は IFRS を優先してきており、シュナーが主任会計士就任後に、次に起こすアクション (次のステップ) について助言を行なうように指示している (Schnurr 2015b)。シュナーも、IFRS は「最初の仕事」(Schnurr 2014) と公言する。

SEC 主任会計士室の主任会計士に就任後、シュナーによる公式のスピーチも、従来の主任会計士室の方針や取り組みに従って、「SEC および PCAOB の最近の動向に関する AICPA 全国会議」(2014年12月8日: Schnurr 2014)、バルーク大学 (Baruch College) の財務報告会議 (2015年5月7日: Schnurr 2015a)、「SEC と財務報告協会年次大会」(2015年6月5日: Schnurr 2015b) および「AICPA 銀行貯蓄機関全国大会」(2015年9月17日: Schnurr 2015c) などでのものである (2015年9月末日現在)。12月8日の AICPA 全国会議での講演こそが、シュナー主任会計士の IFRS の取り組みの「出発点」(Schnurr 2014) である。

AICPA 全国会議の5日前に開催されたアメリカ商工会議所主催の「財務報告の将来」(The Future of Financial Reporting) 会議で、シュナー主任会計士は、これまでにみられたアメリカにおける IFRS の使用に関する代替案を、次の3つに整理した (U.S. Chamber of Commerce 2014)。

- (1) IASB に主導権を渡すと称される、完全な IFRS (ピュア IFRS) の使用
- (2) IFRS 財務諸表を届け出る選択肢のアメリカの登録企業への提供
- (3) ベスウィックによって提案された「コンドースメント・アプローチ」

就任当初の 8 週間に及ぶこれら代替案についての調査と SEC コミッショナーとの議論が、シュナー主任会計士による「IFRS を〔アメリカの発行体の財務報告制度に：引用者〕 組込む可能性についての別の代替案」(Schnurr 2014)、すなわち、「第 4 の選択肢」の考えをもたらした。この第 4 の選択肢こそ、世界中の投資家を不安にしている IFRS を取り巻く不確実性を解消または縮小するための SEC コミッショナーへの提案であり、シュナーにとっての優先事項である。

第 4 の選択肢は、シュナー主任会計士とエルハルト副主任会計士によるもので、アメリカの発行体に U.S. GAAP による財務諸表を補完するものとして、IFRS に基づく情報の強制開示ではなく、任意開示を容認するという代替案である (Schnurr 2014; Erhardt 2014)。

V むすびに代えて—「IFRS を葬り去る」見解の否定—

シュナー主任会計士の一連の講演を時系列に読むと、彼が IFRS 導入問題を優先事項としていることが鮮明となる。また、各講演は、数珠つなぎのように関わり合っている。

たとえば、バルーク大学での講演で、SEC 主任会計士就任以来の彼の調査結果を披露した。つまり、(1) SEC がすべての登録企業に IFRS を強制することには、ほぼ支持はないこと、(2) SEC が国内の登録企業に IFRS に基づいて財務諸表を作成することを認める選択肢を提供することには、ほとんど支持がないこと、(3) 単一の高品質でグローバルに認められた会計基準の目的には、引き続き支持があることである。

とくに、第 3 の調査結果は、「私は、IFRS を称賛するためではなく、葬り去るためにいる」としたコックス元 SEC 委員長の見解に疑義を唱え、またそれを否定する拠り所となりうる。現に、シュナー主任会計士は、3 つの調査結果を踏まえて、コックスの見解をあまりに時期尚早だと説いた (Schnurr 2015b)。

「私見では、今後短期間に、FASBとIASBは、基準をコンバージェンスすることに焦点を置き続けるべきである。両審議会は、協働のためのコミットメントを再確認すべきであり、また関係者のニーズを満たし、財務報告の品質を改善する場合にはいつでも、IFRSとU.S. GAAPの差異を取り除く基準を開発すべきである。主に、両審議会は異なるニーズを有するさまざまな関係者に対応（奉仕）しているので、両審議会在、基準設定プロセスにおいて、必ずしも差異を取り除くことはできないと理解している。しかしながら、基準間に差異が生じると、両審議会は、適用から学習すること、および最高品質の財務報告の結果をもたらす基準にコンバージェンスすることを目標として、お互いに再検討することを目的として、これらの基準の適用を監視すべきである。」

シュナー主任会計士は、2015年9月の講演（Schnurr 2015c）でもこの見解を繰り返している。

主任会計士の就任時に、IFRSが優先事項であるシュナーにとって、コックスの「IFRSを葬り去る」との見解は看過できず、その見解を否定しないと、自身の役割期待を果たしきれない。また、シュナーが説くIFRSによる任意開示を容認する第4の代替案の考えは、1981年の「外国民間発行体の統合開示制度」（SEC 1981）の規制措置の考え方に少なからず関係している（Erhardt 2014）。コックスの見解を根本的かつ全面的な否定ではなく、「時期尚早」とした意図も含めて、今後のSEC主任会計士室のIFRSのイニシアティブをさらに掘り下げて見極める必要がある。

（筆者は関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授）

【付記】本稿は、2015年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C）（一般））（課題番号：15K03804）による研究成果の一部である。

【参考文献】

- Beswick, P. A. (2010), Speech by SEC Staff: Remarks before the 2010 AICPA National Conference on Current SEC and PCAOB Developments, December 6, 2010.
- Campos, R. C. (2006), Speech by SEC Commissioner: Remarks before the 31st Annual Conference of IOSCO in Hong Kong, Panel 3: Bond Markets — Should Their Transparency

- be Enhanced?, June 8, 2006.
- Casey, K. L. (2007), Speech by SEC Commissioner: Remarks at the 35th Annual AICPA National Conference on Current SEC and PCAOB Developments, December 10, 2007.
- Cox, C. (2006), Speech by SEC Chairman: Address to the New York Financial Writers Association, June 8, 2006.
- Cox, C. (2007), Speech by SEC Chairman: Opening Statement at the Commission Open Meeting, April 4, 2007.
- Cox, C. (2008a), Speech by SEC Chairman: Remarks before the U.S. Chamber of Commerce, April 18, 2008.
- Cox, C. (2008b), Speech by SEC Chairman: 'International Financial Reporting Standards: The Promise of Transparency and Comparability for the Benefit of Investors around the Globe', May 28, 2008.
- Cox, C. (2014), How America's Participation in International Financial Reporting Standards Was Lost, Keynote Address to the 33rd Annual SEC and Financial Reporting Institute Conference, June 5, 2014.
- Erhardt, J. A. (2005), Speech by SEC Staff: Remarks before 2005 AICPA National Conference on Current SEC and PCAOB Developments, December 5, 2005.
- Erhardt, J. A. (2006), Speech by SEC Staff: Remarks before the 2006 AICPA National Conference on Current SEC and PCAOB Developments, December 11, 2006.
- Erhardt, J. A. (2014), Remarks before the 2014 AICPA National Conference on Current SEC and PCAOB Developments, December 8, 2014.
- Glassman, C. A. (2006), Speech by SEC Commissioner: "Complexity in Financial Reporting and Disclosure Regulation", Remarks before the 25th Annual USC Leventhal School of Accounting SEC and Financial Reporting Institute Conference, June 8, 2006.
- Herz, R. H. (2013), *Accounting Changes: Chronicles of Convergence, Crisis, and Complexity in Financial Reporting*, AICPA (杉本徳栄・橋本尚訳 (2014) 『会計の変革—財務報告のコンバージョン、危機および複雑性に関する年代記—』同文館出版).
- Hewitt, C. (2008), Speech by SEC Staff: IFRS and U.S. Companies, May 29, 2008.
- Kroeker, J. L. (2007), Speech by SEC Staff: Remarks before the Leventhal School of Accounting: SEC and Financial Reporting Institute, May 31, 2007.
- Schnurr, J. (2014), Remarks before the 2014 AICPA National Conference on Current SEC and PCAOB Developments, December 8, 2014.
- Schnurr, J. (2015a), Remarks before the 2015 Baruch College Financial Reporting Conference, May 7, 2015.
- Schnurr, J. (2015b), Remarks at the 34th Annual SEC and Financial Reporting Institute Conference, June 5, 2015.
- Schnurr, J. (2015c), Remarks at the AICPA National Conference on Banks and Savings Institutions, September 17, 2015.

- Securities and Exchange Commission (SEC) (1981), Release Nos. 33-6360; 34-18274; 39-677, Integrated Disclosure System for Foreign Private Issuers, November 20, 1981.
- SEC (2006), Release Nos. 33-8762; 34-54976; File No. S7-24-06, Management's Report on Internal Control Over Financial Reporting; Proposed Interpretation; Proposed Rule, *Federal Register*, Vol. 71 No. 248, December 27, 2006.
- SEC (2007a), Transcript: International Financial Reporting Standards Roadmap Roundtable, March 6, 2007.
- SEC (2007b), For Immediate Release 2007-62, SEC Commissioners Endorse Improved Sarbanes-Oxley Implementation to Ease Smaller Company Burdens, Focusing Effort on 'What Truly Matters', April 4, 2007.
- SEC (2007c), For Immediate Release 2007-72, SEC Announces Next Steps Relating to International Financial Reporting Standards, April 24, 2007.
- SEC (2007d), Release Nos. 33-8809; 34-55928; FR-76; File No. S7-24-06, Amendments to Rules Regarding Management's Report on Internal Control Over Financial Reporting; Final Rule, *Federal Register*, Vol. 72 No. 123, June 27, 2007.
- SEC (2007e), Release Nos. 33-8810; 34-55929; FR-77; File No. S7-24-06, Commission Guidance Regarding Management's Report on Internal Control Over Financial Reporting Under Section 13(a) or 15(d) of the Securities Exchange Act of 1934, *Federal Register*, Vol. 72 No. 123, June 27, 2007.
- SEC (2007f), Concept Release on Allowing U.S. Issuers to Prepare Financial Statements in Accordance With International Financial Reporting Standards; Proposed Rule, *Federal Register*, Vol. 72 No. 156, August 14, 2007.
- SEC (2008a), Release Nos. 33-8879; 34-57026; International Series Release No. 1306; File No. S7-13-07, Acceptance from Foreign Private Issuers of Financial Statements Prepared in Accordance With International Financial Reporting Standards Without Reconciliation to U.S. GAAP; Final Rule, *Federal Register*, Vol. 73 No. 3, January 4, 2008.
- SEC (2008b), Release Nos. 33-8982; 34-58960; File No. S7-27-08, Roadmap for the Potential Use of Financial Statements Prepared in Accordance With International Financial Reporting Standards by U.S. Issuers, *Federal Register*, Vol. 73 No. 226, November 21, 2008.
- SEC (2010), Release Nos. 33-9109; 34-61578, Commission Statement in Support of Convergence and Global Accounting Standards, February 24, 2010.
- SEC Advisory Committee on Improvements to Financial Reporting (2008), Final Report of the Advisory Committee on Improvements to Financial Reporting to the United States Securities and Exchange Commission, August 1, 2008.
- SEC Office of the Chief Accountant (2012), Work Plan for the Consideration of Incorporating International Financial Reporting Standards into the Financial Reporting System for U.S. Issuers: Final Staff Report, July 13, 2012.
- SEC Office of the Chief Accountant and Division of Corporation Finance (2010), Work Plan for

- the Consideration of Incorporating International Financial Reporting Standards into the Financial Reporting System for U.S. Issuers: Progress Report, October 29, 2010.
- U.S. Chamber of Commerce (2014), The Future of Financial Reporting, December 3, 2014.
- Walter, E. B. (2009), Speech by SEC Commissioner: Remarks before the AICPA National Conference on Current SEC and PCAOB Developments, December 9, 2009.
- Walter, E. B. (2013), Keynote Luncheon Speech, 32nd Annual SEC and Financial Reporting Institute Conference, May 30, 2013.
- 杉本徳栄 (2009) 『アメリカ SEC の会計政策—高品質で国際的な会計基準の構築に向けて—』 中央経済社。